

Management Club Report

Jun.2010/Vol.90

Monthly Opinion 《コンサルタントの教育論》

年間プログラムで毎月1回訪問している歯科医院のスタッフから、コンサルタントの向あてにメールがよく届きます。院内研修の感想であったり、質問であったり、時には仕事と家庭の両立に関する悩みや相談であったりするようです。

多忙を極める向ですが、仕事の合間をみてはふうふう言いながらも小まめに返信をしている姿を見ると、真剣に生きようとする人たちの熱い思いに逆に勇気付けられているように映ります。

今多くの歯科医院では、2～3年周期で若いスタッフを使い回す短期的人事政策から、出産退職後の優秀なスタッフを再雇用するなどの長期定着型人事政策に変わりつつあります。メンテナンスの重要性と担当制システムが定着してきたことが影響しているためでもあります。やはり院長が優秀な人材を心底求め始めたことを表している結果だと思います。

そのような中で子育て奮闘中の“ママさんスタッフ”が、組織の核として院内で重要な存在感を発揮し出していますが、その人たちにとって向の存在が、僅かでも鏡のようになっているのであれば、向も忙しさの中で大変であったとしても、この道を選んだ人間として『以て瞑すべし』の心境ではなかろうかと思えます。

私たちは自らを『教育者』と位置付けるほど身の程知らずでも、恥知らずでもありませんが、子を教育すべき母となっても尚、自らを天職に奉じようとするスタッフの人たちの支えとなるのであれば、まさに望外の喜びと言えるものです。

今月は前月を受けまして『DBM流教育論』を述べて行きたいと思えます。

1

コンサルタントの果たす役割

コンサルタントが生まれる背景と当社の目指したこと

コンサルタントなる職業が成立する背景には、社会の混沌やその業種の将来性に対する不安があります。例えば歯科界で言えば、社会保障費の行方が混沌としてきたことや、競争が激化し、従来型の経営感覚では立ち行かなくなるのではないかという不安感が増幅してきたことがこれに当たります。

かつての牧歌的な『良き時代』には存在し得なかった経営コンサルタントが求められ、そのニーズに応えるようにコンサルタントが生まれてくる。私たちも正にそのような時代の要請に基づき誕生した会社のひとつですが、基本としては人材教育を中心にした組織開発を行うことを当初から目指していました。

歯科界に収入減少社会到来の予感

以前の会社ではファイナンス業務を軸に市場調査や財務分析などを行っていましたが、通常ですと、独立してもその経験を生かした延長路線を歩むのが普通なのでしょ